第４２回田原市市民協働まちづくり会議　議事録要旨

１　日　時	令和８年１０月３０日（金）午前１０時～午前１１時４０分
２　場　所	３００会議室
３　出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
４　連絡事項	１　会長、副会長の選任について ２　報告事項 （１）市民協働まちづくりの推進体制について （２）市の機関の取組について （３）市民活動支援制度活用状況について （４）田原市民活動支援センターの運営について ３　その他 ○ 意見交換等

※委員の発言に対する回答・意見について

“⇒”で示したものは事務局の回答・意見

“➡”で示したものは報告者（委員、参加者）からの回答・意見

会議内容要旨

事務局：会議資料の確認

１　会長、副会長の選任について

会　長：藤井吉隆委員に決定。藤井会長よりあいさつ

副会長：冨田昌義委員に決定。冨田会長よりあいさつ

２　報告事項

（１）市民協働まちづくりの推進体制について

○事務局：資料１、２について説明。

≪委員からの質疑・意見≫

・来年度、田原市市民協働まちづくり方針の内容をこの会議で検討するのか。

⇒現在の方針は、平成２９年度からの１０年間の方針となっているため、来年度の会議の中で、方針の見直しを行っていく予定。そのため、来年度の会議は３回程度の開催を予定。

・市民活動において、若年層の参画が課題。

・令和８年２月のしみんのひろばでは、子どもと保護者なども来ていて盛況だった。

・過去の会議でも、情報発信を強化していくという意見が上がった。ＳＮＳの情報発信について実際どれくらいのフォロワーがいるのか。

➡田原市民活動センターのインスタグラムのフォロワー数が現在３６７人。発信を行えば、必ず反応があるため、少しずつではあるが、増えつつあると感じている。

（２）市の機関の取組について

○事務局：資料３について説明。

≪委員からの質疑・意見≫

・資料の内容がかなり多く、頁数も多いため、内容を確認するための日数がほしい。当日配布ではなく、事前配布してほしい。
・６頁「（１）活動環境の整備のあり方　ａ．施設等の整備・利用改善」では、赤羽根地域の複合施設の基本設計を行った。令和８年度は、関係機関との調整を通して、実際に工事を行っていく予定。７頁「（２）情報提供のあり方　ａ．市民公益活動の市民等への情報提供」では、若い世代へアプローチのため、新たに恋サポＬＩＮＥでの発信を行っている。その他、移住定住のイベント等にも婚活ブースを出し、力を入れていると聞いている。
・今後は、市民団体の方たちとまちづくりの未来について意見を交わしながら、可能性を見出す方向に持っていけたらと思う。
・田原青年会議所として力を入れている事業は。
➡田原青年会議所の活動としては、今週のリレーマラソンで、運営の手伝いや恋サポＬＩＮＥのＰＲ活動も行う予定。今後も幅広くさまざまな方と協力しながら活動していきたい。

≪藤井会長まとめ≫

・田原市はさまざまな取組を行っている。これからも市内に活動が広がっていくことを期待している。

（３）市民活動支援制度活用状況について

○事務局：資料４－１、資料４－２について説明。

≪委員からの質疑・意見≫

・補助金の活用について、特に新規団体枠は、令和４年度から令和６年度と比べると令和７年度、令和８年度ともに増加傾向だと感じる。事務局として把握している要因は。
⇒増加した要因はわかりづらいところではあるが、コロナ禍を経て若い方の活動が増えており、市民活動の裾野が広がっていけばと感じている。
・令和７年度の田原市社会貢献活動災害補償制度の傷害事故件数は比較的多かったと感じる。どのような事例が多かったか。
⇒ほとんどはコミュニティ主催のスポーツ大会にてけがをした事例が多い。
・田原市市民協働まちづくり事業補助金の事業も対象になってくるのか。
⇒対象となる。
・ボランティア関係でも事業を何かやろうという動きはあるのか。
➡元々、最前線で活動をしていた人が歳を重ね、ちょうど世代交代の時期だと感じている。ボランティア団体の代表者一つをとっても、人選が難しくなっているのが現状。
・ＪＡの中で、有志のような組織があるのか。
➡そもそも制度を知らない人もいると思う。まずは組織の中で話をし、まちづくりに関われるようなことがあれば関わっていきたい。

（４）田原市民活動支援センターの運営について

○事務局：資料５について説明。

≪資料５補足（渡会委員）≫

・田原文化会館の中央図書館入り口手前に設置してあるホワイトボードに書いてもらったみんなの声の一覧（令和８年３月から８月分）をまとめた。特に、「子供が遊べる場所が欲しい」、「児童クラブの待機児童を０にしてほしい」等の声が多かったように思う。「今のままで十分良い街」との声も多かった。

・最近の傾向としては、若い世代が補助金等を活用しながら頑張って活動をしてくれていると感じる。そのような団体を今後も支援していきたい。
・センターへの相談についても、昔は補助金のＨＰを見てもらうところからだったが、最近は自分で申請書などを記入し、ある程度形になっているものを確認することが増えた。これもＳＮＳでの情報発信の効果だと実感している。

≪委員からの質疑・意見≫

・センターとしては、実際に市民の方から声をいただいて、現実的にも叶えられることは少ないが、まちづくり会議に出すこと、市の方に報告するという対応をしている。

３　その他

≪委員からの質疑・意見≫

・小学校が統合されつつある中で、地域から学校がなくなっていくと、地域と学校のつながりが薄れ、コミュニティ活動が衰退していくのではないか。
・地域の方が高齢化していくと、自治会活動やコミュニティ活動、市民活動などの全ての活動を担える人が少なくなる。会長の担い手不足はどの地域も課題。
・地域のイベントに若い世代を参画させることで、市民協働の基礎である人と人とのつながりを中心に、地域の活動をもう一度盛り上げたい。
・これまで地域の花壇を小学生が草刈りしていたが、少子化によってこのような取組をやめたことで、現状誰も手を加えず、ものすごく草が生えている状態になっている。
・子供のころから地域とのつながりがあると、市民活動につながっていくのではないか。
・来年度、市民協働まちづくり方針を見直す際は、現状に併せて内容を見直すべき。
・何年も小学校にグランドゴルフを教えに行っているが、次の候補が見つからない。団体の人数も減少傾向であることは非常に問題。

≪総括意見（藤井会長）≫

・世代交代、若年層の課題等があり、少子高齢化が進んでいる中で、変化にどう対応していくかが大きな課題として明確化していると感じた。来年度、市民協働まちづくり方針を見直す中で、環境の変化にどう対応していくかをしっかりと考えるべきだと感じた。次回の会議でも、委員の方の様々な視点から気づいたことを共有できる時間にし、今後に繋げていきたい。

午前１１時４０分閉会